東京都台東区の「谷中」地区は平成28年にインバウンド客を含め約300万人を集客し話題になっている。観光目的に名所・旧跡を挙げる声は依然6割と高く、江戸後期から、明治・大正・昭和の街並みと、谷中地区の歴史・文化が再認識され脚光を浴びている。

「谷中」は東京23区のほぼ中心に位置する台東区にあり、荒川区と文京区の区境にある。東にJR山の手線「日暮里駅」、北はJR「西日暮里駅」、西は東京メトロ千代田線の「根津駅」・「千駄木駅」、南は上野公園に囲まれた地域で、いずれも1km以内の徒歩圏にある。近くには学芸の頂点を極める「東京大学」、「東京藝術大学」があり、「谷中霊園」には15代将軍徳川慶喜が眠っている。

江戸時代に築造された観音寺（かんのんじ）境内の築地塀。土と屋根瓦を交互に積み重ねた珍しい塀で、国登録有形文化財（建築物）に指定され、平成4年（1992）に「台東区まちかど賞」を受賞

アートスペース&ギャラリーの「すぺーす小倉屋」。建物は江戸時代から質屋の「小倉屋」として昭和45年まで使われ、登録有形文化財に指定された。

台東区「下町風俗資料館」。江戸時代から代々酒屋を営んでいた「吉田屋」の建物を現在地に移築した。正面入口の板戸と格子戸の上げ下げで開閉する揚戸(あげと)が設けられ、当時の商家建築の特徴をあらわしている

FieldWork | 地域選択

街つくり：地域共生型新しいライフスタイル

１地域文化の掘起こしと地域団体の連携

谷中菊まつり 1984~

地域雑誌『谷中根津千駄木』1984~2009

地域団体・大学の連携「親しまれる環境調査」1986~1988

２持続的・連鎖的な家とまちの再生にむけて

まちを知る（歴史、路地、建物、自然、遊び、思い出し）

古い建築物の機能を今の時代に適したあり方に変えて、

新しい機能を付与すること。（歴史的建物の保全、路地や緑の保全）

まちとひとをつなぐ（新旧住民交流、お祭り参加、子供イベント）

３．地域共生型集合住宅から新しいライフスタイルを探索

多様化した塊を今の核家族もう内包することができない

新しい集住の形：地域共生型集合住宅の効果

開放型、半開放型（緩衝空間）を」導入する　緩衝空間とプライベート空間は互い影響し合い、新しい家族形式を作る

4.　半開放空間を共有する

古民家の機能を付与し、街と社会を融合させた再生理念を街つくり手法。

各家族のプライバシーを確保しながら集団生活の楽しみを享受します。

江戸・東京の背景と谷中
寺町谷中、東北・北陸方面の玄関：上野

鍬形蕙斎紹真の木版画、「江戸名所之絵」初版は享和3年（1803）

街つくり

- 経済のグローバル化は世界の都市の均質化を招き、各地の都市は都市の魅力と特色を回復するための挑戦に直面しており、コミュニティーレベルで都市の魅力を再構築する計画実践が注目されている。日本では、コミュニティーづくりは「町作り」や「町作り」とも呼ばれ、住民が生活の質を向上させるために行うコミュニティ空間計画行動に由来しています。

- 1970年代、日本経済の急速な発展に伴い、古い都市を効果的に改造するため、日本政府は都市再開発事業を強力に推進し、「都市再開発法」を中心に古い都市を改造する制度体系を形成しました。その後、日本大の都市開発は急速に発展し、特に古い都市の改造、都市の中心区の更新が加速し、建築の高層化と都市の高密度化が注目され、都市環境の悪化などの副作用ももたらした。大規模な都市の再建は多くの伝統的な街並みや自然環境を一変させ、人々の不満を引き起こし、「コミュニティの魅力の再生」運動を起こしました。

- **都市**の**魅力**と**発展**の**原動力**は**文化**の**蓄積**からきている。そのため、**都市**の**魅力**の**再生産**は、**政府**が**大規模**に**建設**に**投入**することによって**実現**されるほか、コミュニティーレベルで**都市**の「**人**」の**参加**を**通**じて**魅力的**な**文化的次元**の**建設**を**実現**する**必要**がある。日本建築学会によると、地域社会の既存の資源をもとに、多様化した主体の参加と協力のもと、住民自身の近くの居住環境を改善し、地域の活力と魅力を高め、「生活の質向上」を図るための一連の活動を続けている。「魅力再生産」の目標はコミュニティの建設の重要な目標であり、コミュニティの建設の根本的な意義である。

- 谷中地区は東京市日暮里駅の西南側にあり、上野駅の西北端に広がる面積は69 hm²、約5400世帯、10300人（2005年12月）である。この地域は二回にわたって大きな打撃を受けました。一つは1923年の関東大震災、もう一つは第二次大戦が終わる前の爆撃です。しかし、この2回の大きな打撃はこの地域を完全に破壊したことはなく、大規模な開発もまだ行われていない。
- 谷中地区は江戸前時代1600～1867年の基本的な都市形態を継承しており、この時期の道路網の構造も残している。谷中地区は江戸前の主な寺院区域として、今でも70余りのお寺がこの地区に残っています。また、お寺に関する小さな墓地や大きな霊園（日暮里駅の南西部地区）も数多く残しています。谷中地区は豊富な歴史文化資源を持っており、多くの文化財古跡、近現代史跡と歴史建築を持っています。元の伝統建築の姿を比較的完全に残しています。江戸前時代の伝統的な姿と地方の特色を反映しています。これは谷中地区の魅力再生産の重要な担体です。

駒込林町公園
狸坂
千駄木小
駄木公園
半床庵
延命地蔵尊
マザーインディア
おでん処 猫舌
千駄木 夢塚
山ぎし
文林中
ホスピタルメント 文京千駄木
高村光太郎 宅跡
大給坂
交番
青鞜社 発祥の地
ひのまる歯科
須藤公園
文京千駄木三郵便局
宗林寺
アネックス勝太郎（萩寺）
安田邸
保健サービスセンター本郷支所
汐見地域活動センター／本郷図書館
講談社 発祥の地
ニューヨーク
東洋大学 国際会館
団子坂
駒込中・高
あめ細工 吉原
団子坂上セブン-イレブン
森鷗外記念館
「観潮楼跡」
駒込大観音
汐見小
金土日館
夏目漱石旧居跡（猫の家）
薮下通り
日本医科大
東京不動産企画
日本医科大附属病院
ベーカリーミウラ
郁文館学園中高
千駄木駅
スタート
谷根千 az café
山長/彬
菊見せんべい
交番
コモリヤ
TIM & SAILOR
谷中小
やなぎに桜
NOMURAYA
なぎさ薬局
パレット エステート
鳥安
薔薇人 弁慶
へび道
地下鉄千代田線
谷中キッテ通り
谷中局
藍染川
千駄木みしま眼科
よし房
海上海
芋甚
根津地域 活動センター
根津のたいやき
国重文根津神社
神社（根津権現）
聖テモテ教会
新坂（権現坂・S坂）
不忍通りふれあい館
文京学院 大学
オバケ階段
交番
根津局
根津小
異人坂
東京不動産企画
スギヤマアートルーム
大黒屋
かねよん
日本丸大
みるくの藤
ゆうcafe
はり灸 和
ダイトメディカル 根津クリニック
幸田露伴 旧居跡
御殿坂
タヤけだんだん
「仁王像」
朝倉彫塑館
七面坂
岡倉天心 記念公園
谷中防災 コミュニティセンター
大円寺
「谷中菊まつり」
「笠森おせん碑」
築地塀
大円寺
全生庵「鉄舟・円朝の墓」
さんさき坂
瑞輪寺
「大久保主水の墓」
蓮華寺（六三除け）
延寿寺（足病）
大名時計博物館 玉林寺
谷中霊園
「横山大観・渋沢栄一 出羽の海・獅子文六etc 永眠中」
谷中五重塔跡桜並木
もみじ坂
天王寺
「江戸の三富」
毘沙門天
谷中 五重塔跡
長安寺
「寿老人」
駐在所
徳川慶喜墓
総持院（眼病）
西光寺（足病）
躰仙院（頭痛）
自性院（愛染かつら）
交番
浄名院
「八万四千体」
寛永寺坂
下町風俗資料館付設展
（旧吉田屋酒店）
東京芸術大学 音楽学部
桜木局
護国院
「大黒天」
上野高
東京芸術大学美術学部
東京芸術大学 大学美術館陳列館
一乗寺
三崎坂（善光寺坂）
旧東京
都美術
水月ホテル 森鷗外住居跡
上野
巴蘭間
桜木カフェ
山ぎし
にっぽり屋
朝倉彫塑館
谷中五重塔跡桜並木
谷中キッテ通り
藍染川
根津地域活動センター
国重文根津神社
不忍通りふれあい館
大名時計博物館 玉林寺
谷中霊園
徳川慶喜墓
下町風俗資料館付設展
東京芸術大学音楽学部
東京芸術大学美術学部
東京芸術大学 大学美術館陳列館
上野

- 谷中地区の都市形態には三つの特徴があります。第一は道路網システムが狭い路地から構成されています。第二は区域内に大規模で高密度の小さな家が集まっています。第三は多くのお寺、神社、関連の墓地及び塀に囲まれた開放空間を持っています

- 日本の大通りの両側の建物の高さは道路の幅と密接に関係しているため、狭い街のスケールは日本の各都市の大規模な再開発を制限する強い制約である。そのため、東京の他の地域に比べて、狭い街や多くのお寺がある谷中地区では、街区の再開発で大規模な再建が避けられ、地方の歴史や文化の記憶が保たれています。

- しかし、都市の発展と開発力の増加に伴って、谷中地区は空間、社会と文化の面でも手を焼く問題に直面しています。建設需要がありますが、小規模の街区は大型建築を制限しています。性交通の増加によって、道路幅の需要が高まり、コミュニティの少子高齢化の傾向が地域の活力を弱め、木造建築を保留しながら、経済性と経済性を考慮しなければなりません。防災性、これらの問題は、地域のルールや住民がコミュニティの構築をきっかけに、空間、文化などの面で対応と改善を行い、魅力的な再生産を実現するよう促しています。

「再生産」戦略

１地域文化の掘起こしと地域団体の連携

谷中菊まつり 1984~

地域雑誌『谷中根津千駄木』1984~2009

地域団体・大学の連携「親しまれる環境調査」1986~1988

２持続的・連鎖的な家とまちの再生にむけて

まちを知る（歴史、路地、建物、自然、遊び、思い出し）

古い建築物の機能を今の時代に適したあり方に変えて、

新しい機能を付与すること。（歴史的建物の保全、路地や緑の保全）

まちとひとをつなぐ（新旧住民交流、お祭り参加、子供イベント）

３．地域共生型集合住宅から新しいライフスタイルを探索

多様化した塊を今の核家族もう内包することができない

新しい集住の形：地域共生型集合住宅の効果

開放型、半開放型（緩衝空間）を」導入する　緩衝空間とプライベート空間は互い影響し合い、新しい家族形式を作る

4.　半開放空間を共有する

古民家の機能を付与し、街と社会を融合させた再生理念を街つくり手法。

各家族のプライバシーを確保しながら集団生活の楽しみを享受します。

わが国に対する啓発

1）文化的記憶の魅力を重視する

- 我が国もコミュニティの建築の中で文化の内包を際立たせて、魅力の再生産の実践を行うことを試みます。北京南鑼鼓巷のように、ここ10年の保護計画の中で、住民に対して戸別インタビューを行い、コミュニティ企画意見募集会を開催し、コミュニティ文化及び住民に対する訴求に基づいて、歴史、建築様式、文化雰囲気及び近隣関係の保護をより良く実現し、魅力的な再生産を実現することを目指しています。しかし、中国にはまだ多くのコミュニティ企画がありますが、まだコミュニティ文化資産の保護を重視していません。

2）ボトムアップしたコミュニティ育成

- 日本のコミュニティの建設は、形成から実施まで末端のコミュニティ活動の出現を強調し、その核心は下から上へ、自発的に形成された公民参加体制にある。コミュニティの建築における魅力再生産は、住民が参加することを奨励する大規模な活動を展開するだけではなく、住民がコミュニティ共有空間を利用する権利を維持する上で、コミュニティ住民の参加意識と興味の育成を重視し、誠実で友好的な隣人感情と地方歴史文化に基づく共同記憶を培養する。下からの参加メカニズムは日本のコミュニティが作る動力源であり、コミュニティが長く魅力を維持できる根源でもあります。

3）多元化の主体参加

- 谷中地区のコミュニティの建築実践において、そのコミュニティの建設過程で参与主体の多元性が徐々に増加しており、社会力、市場力、政府力の多元主体は人材、資金、情報、政策などの各角度からコミュニティの建築プロジェクトを支持していることが見られます。この多くの主体が参加する過程で、わが国に対して啓発的なのはNPOの育成及びコミュニティの建設過程と大学との密接な協力である。このほか、谷中地区のコミュニティ建設の経験から、東京芸術大学、東京大学などの大学の積極的な参加はプロジェクトの発展を促進し、魅力的な再生産を実現する重要な力であることが分かりました。ここ数年来、我が国の高校及び関連分野の教師も多くのコミュニティ調査と計画実践に参加してきましたが、まだ初歩的な探求段階にあります。日本のコミュニティの建設過程における大学の参加経験は私達の学習と参考に値すると思います。